

寺報

平成二十九年八月

第七十七号

正念寺護持会発行

常陸太田市久米町二十一

電話〇二一九四一七六一〇五八

FAX〇二一九四一七六一〇一六九

お盆

地獄の釜の蓋つて本当に開くの？

お盆によく聞くのが、「地獄の釜の蓋が開いてご先祖が帰つてくる」と言う言葉ですが、皆さん平気でこんなこと仰っています

が、本当に大丈夫ですか？地獄の釜の蓋が開いて、ご先祖がそこから帰つて来るという事は、言葉を換えれば、「あなたのご先祖は、いつもは地獄で苦しんでいるんだよ」と言う事になりますよね？

そもそも「お盆」は、元々「盂蘭盆」と書きました。それが短くなつて「盆」だけになつたわけですが、インドの言葉の「ウランバーナ」に漢字を当てたのが「盂蘭盆」ですが、言葉の意味は「逆さにつるされるような苦しみ」という事です。

この「お盆」は、お釈迦様の弟子の目連尊者の餓鬼道に落ちた母の故事に由来しています。その母親が、餓鬼道の世界から抜け出し、淨土往生された事を喜び、うれしさのあまり皆で踊り出したと言われています。それが「盆踊り」の始まりだそうですが、



鎌倉「光明寺」地獄絵

地獄に落ちているご先祖と、淨土往生したご先祖。皆さんは、どちらに手を合わせるのでしょうか？
ところで、インターネットでいろいろ見ておりましたら、次のような事を書いている「神道研究家」という方がおりました。
『位牌』に入っている先祖とお墓にしか入れない先祖、地獄から出てきた先祖などがお盆に再会する。位牌に入っている先祖はある程度高いところにいかれた人達で、地獄から出てきた人にとっては、短い期間ですが、同じ家筋の高いところの方から人としての生き方、考え方などいろいろな話を聞いて、地獄から出られるための気づきをもらいます。そしてお盆が終わる十六日の送り火にはそれを合図に元いた場所に戻ります。』

なんとまあ、神道を研究している方が、仏教の事をわけ知り顔でよく言つたものだなあ、と言う気持ちです。佛教で言う『地獄』とは、自らが犯した罪によつて自ら作り出される世界なのです。自らが犯す罪とは、一つには「欲望」があり、一つには「怒り・腹立ち」があり、更に「真実を見ない」というものがあります。
私たちには、苦しくなると、この苦しみをつくつたのは「親のせいだ」「夫もしくは妻のせいだ」いや「上司のせい」だ、などと原因を他人になすりつけ、実は自分の欲望や怒りや真実から目をそらしていい自分に原因がある事にしつかりと向き合わずに生活をしてしまいます。これこそが「私が地獄に落ちる罪」であり、親鸞聖人が「地獄は一定すみか」と仰る所以でもあります。

目連は、正しくは目健連と書きますが、略して目連と呼ばれ、釈尊十大弟子の一人で、神通第一と言されました。大変容貌端麗な今で言うイケメンで、様々な学問に精通していましたと伝えられております。その目連の母親は、我が子かわいさの余り、我が子のためだけに食物はもちらんの事を、様々なものを集め、それこそ食欲に取り憑かれたような様であつたため、餓鬼がきの世界に落ちて苦しんだと伝えられております。

しんらんさま

【第五回】

さて、親鸞聖人^{しんらんじょうにん}三十九歳の年に流罪が解けるわけですが、その後どうされたのか？本願寺派の言うところ（覚如上人^{かくによじょうにん}）の書かれた御伝抄^{ごでんじょう}に依ると越後から直接常陸方面に向かった訳ですが、仏光寺派や高田派に伝わる伝記には、京都に戻つたとあります。そもそも親鸞聖人が流罪の罪を処せられたのは京都に於いてであり、その罪が許された時には京都に連れ戻され、そこで正式に赦免の沙汰^{さた}が下されたのではないでしょうか。その後、師匠の法然聖人・妻であった玉日と会いたかったのでしょうかが、師法然聖人^{ほうねんじょうにん}も妻玉日も既に亡くなつており、墓参りをしてややしづら^{じづら}く経つて、関東へ向かつた（仏光寺派伝繪に依れば十月）のではないでしょうか。高田派の正明伝には「哀愁の涙に沈みつつ、そのおりふしの事どもまで語出されたり」とあり、親鸞聖人^{しんらんじょうにん}の悲しみや人間味がにじみ出でますが、そしてキチンと礼儀・筋を通してから関東に向かつたとみる方が、人間親鸞^{しんらん}をより際立たせてくれるような気もします。

直接か京都經由かはともあれ、親鸞聖人^{しんらんじょうにん}は関東へ布教の旅に向かう事になります。そして、関東で最初に落ち着いた場所が下妻・小島の草庵であった事は、正明伝にも恵信尼文書にも共通しており、関東に向かつた理由はともかく、まず間違いの無い所でしよう。その後、下妻辺りは、当時湿地帯であつたと考えられており、生活するには不便であつたため、その地から稻田（現笠間市稻田）に居を移して、ここを拠点に常陸国（現茨城県）・下総（現千葉県北部）・下野（現栃木県）等での布教を精力的に続けられたと考えられます。この拠点を移した理由についても様々な説があり、正確なところを知るにはまだまだ追いつく事が出来ず、今ここでは、単に「移つた」とだけ書いておきます。

次回は、京都へ戻られてからの聖人の動向を考えてみましょう

（つづく）

ところで、この稻田を中心^{しゆ}に布教活動されていいた時代に、淨土真宗にとつては非常に大切な聖典である顕淨土真実教^{けんじょうじよしうじきょう}行証文類^{ぎょうしょもんるい}（教行証文類と略す）の執筆が成されました。この教行証文類は、常陸国在住の元仁元年（一二二四年）四月十五日に草稿本が完成したとされていますが、親鸞聖人^{しんらんじょうにん}九十一年のご往生まで、常に加筆推敲を続けられており、未完の書とも言われております。こうして聖人は、教行証文類という大切な書物を書きながらも、常陸国（茨城県）各地を歩き、約二十年布教を続けられました。こうして常陸国・下野国^{しもつけのくに}・下総国^{ふさのくに}などに沢山のお弟子が生まれ、大きな真宗門徒集団となつています。そして、聖人六十三歳の頃、京都へと戻られる事になります。その理由ははつきりとしておりませんが、教行証文類の完成に向けて、より經典に触れやすい都に戻つたのだという説や、鎌倉幕府が出した念佛禁制のせいだと言う説など、他にもいくつかの説が述べられておりますが、どの説もあくまで推測の域を出るものではありません。ただ、京都へ戻られたという事だけははつきりしております。



ご門徒さん紹介

那珂市中里在住

小坪
一義様



慈愛に満ちた顔でした。



今回ご紹介するご門徒さんは、組木細工でティッシュペーパーケースを造られている那珂市中里の小坪一義さんです。小坪さんは、十五歳の時に指物師に弟子入りして技術を修めましたが、残念ながら親方の会社が立ちゆかなくなつた事もあり、別な会社に再就職をされ勤め上げましたが、退職後に少年時代から学び自分のものにした指物の技術を生かし、ティッシュペーパーケースを造っています。様々に木を組み合わせながら、その木目を生かして作り上げていますが、人工漆（カシュー）を何度も塗り重ねて造られるそのケースは、光沢の深いなんとも見惚れてしまう美しさを持っています。木をこんな組み合わせにしたらもつと面白い物になるんじやないかな?と語る小坪さんの笑顔は、木への



『歎異抄』の作者、唯円坊の墓

唯円坊の墓

唯円坊のお墓は、奈良県吉野郡下市町の立興寺本堂裏の山を登つた所にあります。水戸市の河和田町にある報福寺の開基でもあります。唯円坊の晩年は、布教の為もあつて吉野に住んでおられたようです。立興寺の前住職様のお話によると、下市町という所は、高野山の麓ふもとでありながら、真宗門徒の多い町だそうです。緑の多い素敵な街という印象でした。



袈裟切りのお名号



唯円坊のお墓



立興寺山門

感謝録

ご寄付を戴きました事に感謝を込めてご報告させて戴きます。

一、義母の永代経として

金 壱拾万円

小澤 良明様



教えて下さい

聞法会々員募集

毎月八日 午前九時三十分より

仏教に関するいろいろな事をみんなで一緒に学びましょう

九月からは、普段の生活で何気なく使われている仏教の言葉を学んでいきます。例えば、「ありがとう」なんていう言葉も仏教から来ている言葉なんですよ。

募集中！

住職雜感

この夏は、七月上旬の時点で既に三十度を大きく超えた日もありましたが、本当に年々暑くなっているような気がいたします。

地球温暖化の問題が言われて、結構な年月が流れているように思いますが、地球規模でそれぞの国が、人が考えなければならぬ問題ですので、一朝一夕に解決できることではないでしようが、なんとか世界の英知を結集して問題解決の方法を見つけられれば有り難い事です。

それで無くともこの地球上には非常に多くの問題が横たわっております。この少ないスペースで一つ一つ挙げる事は出来ませんが、ざっと見ても「テロの問題」「核の問題」「賃金格差の問題」「戦争の問題」「難民の問題」などを簡単に挙げる事が出来ます。

皆さんの回りに、何か特技を持つた方いらっしゃいませんか？
何か自慢出来るもの持っている方いらっしゃいませんか？

紙細工の得意な方や木工の得意な方。是非教えて下さい。そして、「門徒さん紹介」の欄で紹介させて下さい。

よろしくお願ひ致します。

来年度連続研修会受講生募集

年間四回 二年間（二月期は一泊）

一年に四回、二年間、沢山の仲間と一緒に仏教や真宗の事、日常の生活と仏教・真宗との関わりなどをみんなでワイワイガヤガヤしながら考えていきます。

二月の一泊の時には、筑波山中腹の温泉旅館で、一杯やりながらカラオケをしたり、喧々諤々意見をたたかわせたり、楽しくやってま

す。
智という三毒の煩惱の解決に動いたならば、大きな力になると思うのですが、現実にはなかなか声を出し、実行すると言うまでは至っていないのが現状です。それは、私も含め宗教者が、大きく反省しなければならない事でしようが、少なくともまず自分が小さな一步でも良いから、三毒の煩惱をしっかりと見つめ、お念仏の正しい智慧に導かれる踏み出したいのです。